

実践記録(小5・体育)

1 ねらい

自らの課題に気付いたり、練習の成果を実感したりしながら、児童同士で話し合いを進め、マット運動に関する技術的な課題を解決するために努力することができる。

2 活用したICTと場面

体育科の「マット運動」の単元で、児童自身がどの動きが不十分なのかを捉えやすくするために、示範映像の確認を取り入れ、新しく技を学習する授業の最初に映像を見せた。示範映像にはデジタルコンテンツを活用し、スロー映像でどこを意識したらよいかを全体で細かく確かめ、課題となる点を確認した。(資料1)

また、自らの演技をデジタルカメラで撮影し、示範映像や示されたポイントと照らし合わせながら、学習を進め、自らの成長を視覚的に捉えながら、学習を進めた。



示範映像で技のポイントを確認する児童(資料1)

3 実践の様子

本実践では、デジタルカメラを9グループそれぞれに1台渡し、時間を決めて撮影した。(資料2) その映像を見ながらグループで話し合い、示範映像や示範演技と照らし合わせながら課題を見付け、再び練習を行った。

デジタルカメラで映像を確認したことで、手の着き方や位置などを客観的に捉えられ、多くのグループが友達や自らの演技に対して課題を見つけることができた。課題がうまく見つけれなかったグループには教師が入り、課題を強調した示範演技を撮影した。強調された示範演技を映像で確認することで、児童は課題に気付くことができた。また、その映像と自らの技を比較することで、自らの技に何が足りないのか考え、改めて話し合いを進めることができた。



撮影をしながら学習に取り組む児童(資料2)

また、今まで学習した技から「特にがんばりたい技」と「特に意識するポイント」を決め、撮影した練習の様子を次時で確認した。教室でグループ毎に撮影した映像を確認しながら、個々の課題についてグループ全員で話し合った。(資料3) 撮影した映像から、自分では足を伸ばしているつもりでも、映像を確認すると足が伸びていないことに気付いていた。そして、周りの友達「こうした方がいいよ」という言葉掛けから、児童は新たに課題を発見することができた。これにより、その後の練習では自らの課題をより明確にした状態で学習に取り組み、課題を解決するための努力を重ねて、技能を高めることができた。



グループによる話し合い活動で友達と課題を考える児童(資料3)

4 成果と課題

- ICT機器を様々な活動に取り入れることで、児童は自らの課題を明確にし、意欲的に学習に取り組むことができた。
- 運動が苦手な児童には課題をさらに細分化して考えさせると、より技能の高まりを感じさせることができた。